

三線の花 二揚げ

本調子

工	老	中	中	四	合	中	四	合	六	五	四	六	工	合	六	五	六	五
---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---

工	老	中	中	四	合	中	四	合	六	五	四	六	工	合	工	工	四
---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---

上	上	中	合	四	老	中	中	王	合	中	合	中	合	工	六	八	五	中	工	四
いつしかわすられた																				
おじーのかたみのさんしん																				

上	合	上	中	合	上	四	合	五	工	合	上	合	上	合	中	工	五	工	四
このままで たんじょう いわいのしまぎけにもたれて																			

上	上	中	合	四	老	中	中	王	合	中	合	工	六	八	五	中	工	四	
ほりをゆびでなでて																			
ゆるんだいとをまけば																			

上	合	上	中	合	上	四	合	五	工	合	工	合	工	合	五	中	五	四	中
たいくつで たまら なかった しまう たが ひび いた あざ																			

工	合	王	中	王	五	中	工	六	五	中	中	上	合	上	四	上	四	乙	老	四	六	八	五	中	四	中
やかによみがえる あなた とすごしたひびは やわ																										

工	合	王	中	王	五	六	六	合	六	工	中	上	合	王	五	合	五	五	五	六	六	工	中
らかないとしさで このむ ねを つき やぶり さい																							

上	上	王	五	六	五	六	工	合	工	合																
た のはさんしんの はな																										

工	老	中	中	四	合	中	四	合	六	五	四	六	工	合	工	工	四
---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---

上	上	中	合	四	老	中	中	王	合	中	合	工	六	八	五	中	工	四	
てれびのななめむかいの																			
あなたがいたばしよに																			

上	合	上	中	合	上	四	合	五	工	合	上	合	上	合	中	工	五	工	四
すわれば あるみの まどから ゆうづきがのぼる																			

三線の花 二揚げ

本調子

かぞくをながめながら

のむさげは どんなあじ

上 上 中 合 四 老 中 上 合 中 合 工 六 八 五 中 工 四

ねむりに つく まえの う たは だれの う た よろ

上 合 上 中 合 上 四 合 五 工 合 工 合 五 中 五 四 中

こ びもかなしみも いつの ひかうたえるなら この

工 合 王 中 王 五 中 工 六 五 中 工 中 上 合 上 四 上 四 乙 老 四 六 八 五 中 四 中

し まのつちのなか あきに なき ふゆ にたえ はる

工 合 王 中 王 五 六 六 合 六 工 中 上 合 王 五 合 五 五 五 六 六 工 中

に さくさんしんの はな

上 上 王 五 六 五 六 工 合 工

このそ らもあのうみも なにも かたりはしない

四 中 工 合 王 中 王 五 中 工 六 五 中 工 中 上 合 上 四 上 四 乙 老 四 六 八 五 中

このし まにあたたかな かぜと なり あめ をよぶ

四 中 工 合 王 中 王 五 六 六 合 六 工 中 上 合 王 五 合 五 五 五 六 六

さいた のはさんしんのはな

工 中 上 上 王 五 六 五 六 工 合 工

あきに なき ふゆ にたえ はるに さくさんしんの はな

工 中 上 合 王 五 合 五 五 五 六 六 工 中 上 上 王 五 六 五 六 工 合 工

合

工 老 中 四 中 五 工 四 老 中 合 中 四 合 六 五 四 六 工 合 工

工 中 工 五 六 四 七 六 工 四 上 合 工 合 工 合 五 合 四 王

三線の花 二揚げ

本調子

3/3

一、いつしか忘れられた
オジの形見の三線
床の間で誕生祝いの
島酒にもたれて
ほこりを指でなでて
ゆるんだ糸を巻けば
退屈でたまらなかつた
島唄が響いた

鮮やかによみがえる
あなたと過ごした日々は
やわらかな愛しきで
この胸を突き破り
咲いたのは三線の花

三、この空もあの海も
何も語りはしない
この島に暖かな
風となり雨を呼ぶ
咲いたのは三線の花

秋に泣き冬に
耐え春に咲く三線の花

二、テレビの斜め向かいの
あなたが居た場所に
座ればアルミの
窓から夕月が昇る
家族を眺めながら
飲む酒はどんな味
眠りにつく前の唄は誰の唄

喜びも悲しみも
いつの日か唄えるなら
この島の土の中
秋に泣き冬に耐え
春に咲く三線の花